

1. 研究課題名：

親潮沿岸域のゼニガタアザラシと沿岸漁業の
共存に向けた保護管理手法の開発



2. 研究代表者氏名及び所属：

桜井 泰憲（北海道大学大学院水産科学研究院）

3. 研究実施期間：平成 25～27 年度

4. 研究の趣旨・概要

近年、北海道東部沿岸に生息するゼニガタアザラシによる漁業被害（漁獲物の食害）が大きな問題になっている。本研究は、本種の保護管理と持続型沿岸漁業との共存を目標に、道東～北方四島までの生息地の保全および共存可能な持続型沿岸漁業の創成を挙げ、様々な手法から問題解決に挑む。具体的には、北方四島地域から道東沿岸にいたる本種の移動生態と遺伝的交流の有無による個体群構造と地域特性の解析、鰭脚類による漁業被害と資源動態との関連の評価、飼育および野生環境下における個体の採餌行動解明、および混獲・漁業被害軽減手法の開発と持続型漁業の社会経済学的評価を実施する。これにより、実行可能な保護管理方策の提案が期待される。

5. 研究項目及び実施体制

- ①移動生態と遺伝的交流の有無による個体群構造と地域特性の解析（東京農業大学）：
道東一円の野生・混獲個体から DNA を採取し、遺伝的構造や多様性を解明。生体を捕獲して発信機を装着し、行動圏から上陸群間の移動交流を追跡。
- ②鰭脚類による漁業被害と資源動態との関連の評価（独立行政法人水産総合研究センター北海道区水産研究所）：漁業資源（漁獲量、魚価）、水温などの長期環境データをまとめ、資源量と生産額を定量化。ゼニガタアザラシの採餌生態とセンサス（個体数調査）により他の鰭脚類を含む生息環境の特徴、個体数の増減と漁業資源動向との関連性を精査し、持続可能量を算出。
- ③飼育および野生環境下における個体の採餌行動解明（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）：飼育下での対漁網行動の詳細の解明。発信機を装着した野生個体の漁場周辺での行動を精査し、漁場への侵入や被害を起こすメカニズムの解明。
- ④混獲・漁業被害軽減手法の開発と持続型漁業の社会経済学的評価（北海道大学水産科学研究院）：個体の斑紋から漁業被害を与える個体の特定、音響忌避装置の開発、漁具の改良を実施。また、個体群動態モデルを構築し、個体数管理に適用。被害/保全の社会経済学的評価および将来に向けた管理手法を策定し、地域住民、行政、および研究者らで合意形成を行い、ゼニガタアザラシと沿岸漁業の共存に向けた保護管理政策を提言。

6. 研究のイメージ

沿岸海洋生態系の保全と持続的漁業の共存
 ~人もアザラシも共存できる道を拓く~

